

平成30年度第1回
北海道スポーツ推進審議会

会 議 録

日 時：平成30年6月6日（水）10時00分開会
場 所：北海道庁赤れんが庁舎 1号会議室

1. 開 会

○事務局（石丸スポーツ局スポーツ振興課長）

定刻となりましたので、ただいまから、平成30年度第1回北海道スポーツ推進審議会を開催します。

本日の進行を努めさせていただきます北海道環境生活部スポーツ局スポーツ振興課の石丸と申します。どうぞよろしくお願いたします。

2. 挨拶

○事務局（石丸課長）

開会に当たりまして、北海道環境生活部 渡辺部長よりご挨拶申し上げます。

○渡辺環境生活部長

道庁環境生活部長の渡辺でございます。開会に当たり一言ご挨拶申し上げさせていただきます。

委員の皆様におかれましては、御多忙のところ御出席いただきまして、また、日ごろから、本道のスポーツ振興・発展に御尽力を賜り、そのことに対して厚くお礼申し上げたいと思います。

本年3月には、審議会で活発にご議論いただいた皆様からのご意見などを踏まえまして、今年度からスタートした「第2期北海道スポーツ推進計画」を策定させていただいたところでございます。重ねてお礼を申し上げたいと思います。

本道におきましては、ラグビーワールドカップ2019日本大会、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などのビッグイベントに向けまして、スポーツに対する道民の機運が高まっている中、今年9月には日本スポーツマスターズ2018札幌大会、そして来年の1月下旬から2月には第74回の国民体育大会冬季大会が釧路市、そして札幌市で開催されることとなっております。

また、北海道日本ハムファイターズのボールパーク建設候補地が北広島市の総合運動公園予定地に決定したということで、構想実現に向けて夢のある取り組みも始まったところでございます。

こうしたスポーツの風をチャンスと捉えまして、活力ある「スポーツ王国北海道」や共生社会の実現などに向け、本計画に基づいて取組を加速させていきたいと考えているところでございます。

本日は、今年度の「第2期北海道スポーツ推進計画」の関連施策を報告させていただくとともに、平成30年度文部科学大臣表彰の候補者の選考について、ご審議いただく予定としてございます。

皆様の専門的なお立場から貴重なご意見を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

委員の皆様には、今後とも一層の御協力と格別なるご指導・ご助言をいただきますよ

うお願いし、簡単ではございますが、開会の御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願います。

○事務局（石丸課長）

今回は今年度に入って1回目の審議会でございますので、先ず始めに、委員の皆様から一言、お願いしたいと考えております。

お手元に出席者名簿をお配りしていると思いますが、その名簿順にお名前をお呼びしますので、自己紹介を兼ねてご発言をお願いしたいと考えております。

それではまず、宇佐美会長からお願いいたします。

○宇佐美会長

宇佐美暢子と申します。どうぞ宜しくお願いします。現在、公益財団法人北海道体育協会の副会長を務めております。そして北海道スポーツ少年団の本部長を仰せつかっております。元々は、北海道新聞社に長く勤めておりました、取締役事業局長として北海道マラソンの運営などにも関わってございまして、そんなことでスポーツとのご縁が続いております。どうぞよろしく願います。

○事務局（石丸課長）

続きまして、増山副会長お願いします。

○増山副会長

おはようございます。北翔大学生涯スポーツ学部の増山尚美と申します。本学では生涯スポーツ社会の実現というのを目的に学部をつくりまして、北海道のスポーツ推進というところにも私ども協力できればと思います。どうぞよろしく願います。

○事務局（石丸課長）

続きまして、遠藤委員お願いします。

○遠藤委員 おはようございます。北海道大学観光学高等研究センターの遠藤でございます。自分の専門分野はスポーツツーリズムという分野でございます。スポーツツーリズムの一例として、現在自分も参加している観光庁のスノーリゾート地域の活性化推進会議でも議論されておりますが、今まさにこれから増えてくるのは海外のスポーツ観光客でありまして、特に中国からのスキーヤーが、急速に増加し、その対応が北海道でも喫緊の課題になろうかと思っております。この場でも、そうした話題を共有していきたいと考えております。よろしく願います。

○事務局（石丸課長）

続きまして、尾形委員お願いします。

○尾形委員

おはようございます。北海道スキー連盟競技本部長を務めております尾形修と申します。今もお話にありましたが、スキーに関しましては札幌国体ということでウィンタースポーツで常に強い北海道、強いスキー連盟と言うことで頑張っております。ここ2年間、ちょっと国体では2位に甘んじてますが、来年は、総合優勝目指して、皆で頑張っていきたいと思いますということで競技本部を代表して出席させていただきますのでよろしくお願い致します。

○事務局（石丸課長）

続きまして、岡部委員お願いします。

○岡部委員

おはようございます。釧路市の教育委員会の教育長をしております岡部と申します。昨年10月29日に就任をして以来、この職を引き受けており、平成29年度の最後の回から、この審議会に出席させていただいております。その時にも一つお話をさせていただいたのですが、昨年、私ども釧路市が東京オリパラに向けたホストタウンという国の制度の中で、ベトナムを相手国とするホストタウンに認定をされました。この教育長という職に就いて思いますのは、スポーツは今や国際交流であるとか地域振興であるとか、要するにまちづくりの柱の一つになってしまったと思います。したがって教育行政の括りの中でやっていて良いのかなと思うところもあるのですが、選ばれたものですから皆様のご意見をお伺いさせていただけたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（石丸課長）

続きまして、笠師委員お願いします。

○笠師委員

おはようございます。北海道大学病院の笠師と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私は本業が薬剤師ということでございまして、宇佐美会長と北海道体育協会のスポーツ科学委員会というところで、ドーピングを含めた健康サポートの仕事をさせていただいております。本会におきましても道民の皆様からレクリエーションからトップアスリートまで健康的にスポーツができるように進めていきたいのでどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（石丸課長）

続きまして、菊池委員お願いします。

○菊池委員

帯広から来ました菊池といいます。よろしくお願ひします。少年団のスケートを担当しております。今現在、私は小さい子と一緒にスポーツが好きになるようにどうしたらいいかということで、私共々一緒に子どもたちと楽しみながら毎日運動しています。よろしくお願ひします。

○事務局（石丸課長）

続きまして、黒田委員お願ひします。

○黒田委員

おはようございます。黒田伸と申します。元北海道新聞の編集委員で公募委員で3期目となります。現在は北海道教育大学岩見沢校でスポーツジャーナリズムの講師をやっております。他の活動はNPO法人ランナーズサポート北海道という北海道マラソンのNPO法人を手伝っています。それから日本市民スポーツ交流協会、国際交流事業を行っている東京のNPO法人の理事を行っております、メルボルンマラソンの日本人グループを担当しており、色々とスポーツと関係しておりますので、よろしくお願ひします。

○事務局（石丸課長）

続きまして、谷坂委員お願ひします。

○谷坂井員

おはようございます。北海道高体連の会長を仰せつかっております白石高校校長の谷坂でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。北海道の高校生も本当に良く頑張っております、昨年の夏はアーチェリーの団体女子が全国優勝しました。それから、陸上競技、少林寺拳法、ウエイトリフティングで全国優勝しており、冬のインターハイも、スキーやスケートの多くの種目で優勝を果たし、スポーツ王国北海道として、頑張っております。また、正式には今年度になるかと思いますが、平成35年に全国のインターハイが北海道にやってまいります。これに向けて、今年から都道府県と連携して、北海道の高校生一人ひとりが、全国のアスリートの高校生を迎えるという気持ちで準備を進めていくようにしていきたいと思っております。日ごろからスポーツを「する」「見る」「支える」ということで授業の中でも指導しておりますし、部活動等でも選手になったり応援したり、あるいは運営に関わったりする人材を育てていくことが大切なことだと思っております。今後ともご指導の方をよろしくお願ひできればと思っておりますし、白石高校の生徒は文武両道で、学習も部活動も頑張っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局（石丸課長）

続きまして、坪田委員お願いします。

○坪田委員

おはようございます。北海道スポーツ推進協議会の坪田と申します。私たちスポーツ推進委員は全国で5万人、それから、道内には約2,500人の委員がおり、各地域で、地域のスポーツの発展と健康寿命社会のお手伝いをさせていただいております。今後、スポーツ庁でもこれからもっとも地域を普及するにはどうするかということで、札幌が既にスポーツ利用のための学校開放を行っております。これから少子高齢化が進む中、学校やマイクロバスなどを使って、子ども達からお年寄りまでが楽しむことができる健康長寿社会のための、健康づくりを推進していくのが私たちの役目と考えております。これから私どもの組織について市町村の理解を得るとともに、地域に貢献できるように頑張っておりますので、よろしく願いいたします。

○事務局（石丸課長）

続きまして、日向委員お願いします。

○日向委員

皆様おはようございます。公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会の副会長の日向透と申します。普段は旭川の方で知的障がいのある人たちの支援する施設で働いています。障がいのある方とスポーツ全般に関わっており、思い返せば旭川近郊に在住されている知的障がいの選手二人が、初めて長野のパラリンピックに出場した関わりで障がい者スポーツに取り組んでまいりました。

先ほどから年を開けての国民体育大会の話が出ておりますけれども、その後3月にはIPC、国際パラリンピック委員会の主催でクロスカントリースキー、それからバイアスロンのワールドカップが、また引き続き1年をおいて札幌で開催される予定になっております。白旗山を会場に熱戦が繰り広げられるのかなと、ここ北海道から今日の新聞にも出ておりました星澤さんですとか、新田のんのさんですとか、沢山のクロスカントリースキーの方達の活躍が期待できるかなと思っています。年明けて2020年にはSO、スペシャルオリンピックスのジャパン大会、まだ開催地が決定されてませんけれども、北海道で開催するということで準備等に入っておりますし、今年の9月の23日、24日に旭川で全日本パークゴルフ選手権大会がございます。はじめて、その大会に知的障害の方達がオープン参加なんですけれども、一緒にプレーできるような機会を頂戴することができまして、そんなようなところで広がりがあるかなと思います。それから先ほど笠師委員の方からお話のあったドーピングの関係なんですけど、この前に皆様にお示したかと思うのですが、のど飴、ドーピングの方に引っかけるといって、今日持ってきたのですが、これはセーフ、南天のど飴と浅田飴、これはアウトです。浅田飴

はヒゲナミン、南天のど飴は名前になっている南天が作用してドーピング違反となります。これを3年前に私も聞いて、普段愛用している選手はいっぱいいるんですけども、こういったものを注意喚起していくことが必要になってくるのではないかなと思っております。

○事務局（石丸課長）

続きまして、星委員をお願いします。

○星委員

こんにちは。北海道レクリエーション協会の星と申します。僕は昨年の11月に委員を引き受けまして、今日、2回目の会議の出席になります。北海道レクリエーション協会は実は道の団体で、公益財団法人日本レクリエーション協会というのがあります。その下に北海道、そして日本だと都道府県に協会があり、北海道レクリエーション協会の下に市町村の協会等があるという形になっております。どんな事をやっているかという、レクリエーションというのは非常に幅が広いんですけども、一つの言葉を解説しますと、リクリエイト、リクリエーション。再創造、壊れたものを再び創造していくというような意味合いがあります。スポーツの部分で言いますと、どちらかと言いますと競技スポーツというものではなくて、広くですね楽しむというような、そのような活動を中心にやっております。遊学という言葉もありまして、遊学のゆうは遊ぶ、がくは学ぶということで、遊びが学びになる、学びが遊びになる、遊びを通して健康増進をしていくといったことがレクリエーションの狙いの一つになっております。今日、皆さんのいろいろなお話を聞かせて頂けたらなというふうに思っております。どうぞよろしくをお願いします。

○事務局（石丸課長）

最後になりますが、山崎委員をお願いします。

○山崎委員

おはようございます。標津町の教育長の山崎と申します。昨年8月に就任以来、前任に引き続き、この審議会の委員をさせていただいております。学校教育における部活動や生涯学習における社会体育など、様々な面から委員として参加させていただければと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いします。

○事務局（石丸課長）

皆様ありがとうございました。引き続きまして前回の審議会の後にですね、1名の委員の異動がございましたのでご報告させていただきます。北海道中学校体育連盟の異動に伴いましての異動となります。北海道中学校体育連盟、5月22日の役員の改選によ

りまして、前会長、札幌市立北辰中学校の校長であります林原委員が辞任されております。その後任として同じく北海道中学校体育連盟会長、札幌市立月寒中学校校長であります藤井勲一委員が選任されております。

本日、藤井委員におかれましては、所用により欠席しております。

○事務局（石丸課長）

続きまして、事務局の職員のご紹介させていただきます。

[事務局員紹介]

○事務局（石丸課長）

渡辺部長につきましては、この後、所用がありますので、ここで退席させていただきます。

○事務局（石丸課長）

それでは、当審議会について説明させていただきます。

北海道スポーツ推進審議会は、スポーツ基本法第31条及び北海道スポーツ推進審議会条例により、知事の諮問に応じ、スポーツの推進に関する重要事項を調査審議することを目的として設置されております。

続きまして、会議の公開の案件ですが、北海道情報公開条例第26条により、会議は「公開」となりますが、会議を公開することが適当でない場合は、同条但し書きにより、会長が会議に諮って非公開とすることができます。会議録につきましては、「附属機関等の設置及び運営に関する基準」に基づき、非公開部分を除き、道の組織でございます行政情報センターで閲覧に供するほか、道のホームページで公開することになっておりますので御承知いただきたいと思っております。

続きまして、本日の委員の出席に関してでございますが、本日は、15名の委員中、13名の委員に出席いただいております。全委員の2分の1以上の出席がございますことから、北海道スポーツ推進審議会条例第6条第2項により会議が成立していることを御報告いたします。また、本日の審議会でございますが、終了予定時刻は概ね11時30分を予定しておりますので、よろしくお願いたします。

[会議資料を確認]

○事務局（石丸課長）

それでは、ここからの議事につきましては、宇佐美会長にお願いしたいと思います。それでは宇佐美会長、議事の進行をお願いします。

3. 議 事

○宇佐美会長

はい、皆様どうぞよろしくお願ひいたします。議事に入ります。議事の進め方ですが、お手元の次第に沿いまして報告事項から審議事項までを順番にお諮りいたします。それぞれの議題について事務局から説明を受けた後に、委員各位からの質問をお受けいたします。質問終了後、審議事項については採決を行います。

事務局からの説明にもありましたが、北海道情報公開条例第26条により、会議は「公開」となりますが、審議事項については候補者の個人情報を含んでおり、会議を公開することは適当でないことから26条のただし書きにより「非公開」としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

[異議なし]

○宇佐美会長

それでは、審議事項については非公開といたします。傍聴者及び報道関係者におかれましては、報告事項の終了後にご退室いただきますよう、あらかじめお願ひ申し上げます。それでは、報告事項につきまして、事務局から説明をお願ひいたします。

○事務局

平成30年度、第2期北海道スポーツ推進計画関連施策について、事務局よりご報告させていただきます。

計画の策定につきましては、委員の皆様にご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。本日は、策定までの経過と計画に関連する施策について、ご報告申し上げます。

まず、計画策定までの経過についてであります。昨年6月1日に開催された第1回審議会において、国の第2期スポーツ基本計画の策定と北海道の第2期計画の構成や策定スケジュール、北海道のスポーツ振興の現状について、ご報告させていただきました。

11月1日に開催された第2回審議会では、計画の骨子素案についてご審議いただき、その後、12月14日から今年、1月13日の期間でパブリックコメントを実施、2月14日に開催いたしました、第3回審議会において、計画素案の修正版についてご審議いただきました。

その内容を計画に反映させていただき、3月に計画を決定、4月1日施行となりました。

なお、計画につきましては一般の方々にも入手していただけますよう、当課のホームページにも掲載し、ダウンロードできることとしております。

計画の関連施策について、当課の担当より説明させていただきます。

○事務局

昨年度ご審議いただきました「第2期北海道スポーツ推進計画」に関しまして、平成30年度の関連施策について、ご説明いたします。

資料1-1と資料1-2になりますが、資料1-1では関連施策の一覧を記載しております。資料1-2では各事業の概要を記載しております。まず初めに資料1-1をご覧ください。

昨年度、本審議会にてご審議いただき策定いたしました「第2期北海道スポーツ推進計画」では、本道におけるスポーツの推進を図るため、今後の主な取組の内容を計画策定における5つの柱に分類し取り組むこととしております。

資料1-1では、計画の第3章として記載いたしました5つの柱と、その下に各小柱3から4ほどになっておりますが、その小柱毎に、平成30年度の関連する施策を記載しております。

また、計画の中で目標を設定しております小柱につきましては、資料1-1の方に参考として併せて記載をしております。

関連施策のうち、新規事業についてご紹介いたします。

まず、1ページ目になりますが、柱1「スポーツで変わる北海道民」の小柱1「様々な世代のライフステージに応じたスポーツ活動の推進」では、施策を記載した表の上から二番目の「日本スポーツマスターズ2018札幌大会開催費補助金」ですが、競技志向の高い35歳以上を対象とした全国規模の競技大会で、今年9月に札幌市で開催されます大会の開催経費に係る補助を行うこととしております。

表の中の「事業番号」と「ページ」につきましては、資料1-2の記載ページと番号となっております。

次に資料1-1に戻っていただきまして、2ページ目になります。柱2の「スポーツで変える地域・経済・共生社会」の小柱の1番「スポーツによる地域の活性化」になりますが、こちらでは表の一番上の「スポーツコミッション推進事業費」になります。こちらは、スポーツを通じた地域の活性化を促進するため、全道の各地域にスポーツコミッションの設立を推進する事業としております。

続きまして、一つ下に下がっていただきまして小柱の2番の「スポーツの成長産業化」では、表の一番上になりますけれども、こちらは予算事業ではありませんので表の中では事業番号・予算額・ページは記載しておりませんが、今年3月26日に北海道日本ハムファイターズの新球場建設候補地が北広島市の「きたひろしま総合運動公園予定地」に決定したことを受けまして、今後、北海道として構想の実現に向けた総合的な支援協力の具体化を図っていくため、庁内関係部によるプロジェクトチームを設置し、北広島市を始めといたしました関係機関と連携し、取り組んでいくこととしております。

次に、4ページになりますが、柱5「東京2020オリパラの開催、札幌冬季オリパラによる北海道レガシーの創出」の小柱1「東京2020オリパラの開催による好機の活用」では、こちらは事業が2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会聖火リレー関連事業となりますが、2020年に全都道府県で実施されます東京オリパラ聖火リレーの成功へ向け、北海道聖火リレー実行委員会を設置し、ルート選定やランナー

公募、沿道整備等について検討・実施するとともに、オリンピックムーブメントを推進することとしております。

資料1-1につきましては以上でございます。

続きまして、資料1-2をご覧ください。

こちらにつきましては、先ほど説明いたしました資料1-1に記載しております各事業の概要を記載しているものでございます。また、昨年度までスポーツ振興関連事業の概要ということでご説明していたもので、事業所管部局毎に記載しております。

スポーツ振興課が実施する事業につきましては、1ページ目から6ページ目までに記載をしているところでございます。続きまして7ページ目から8ページ目につきましては、教育庁が実施いたします学校教育分野などの事業について記載しているところでございます。9ページから10ページにつきましては、総合政策部が実施いたします国際交流などの事業について記載をしております。11ページにつきましては保健福祉部が実施しております高齢者のスポーツの関連事業を記載しており、最後の12ページになりますけれども、経済部が実施いたします観光振興関連の事業を記載をしているところでございます。

平成30年度第2期北海道スポーツ推進計画関連施策についての説明につきましては、以上でございます。よろしくお願いいたします。

○宇佐美会長

ありがとうございます。資料1-1、1-2に基づきましてご説明をいただきました。この、第2期北海道スポーツ推進計画につきましては、皆様方からの活発なご議論をいただいて、練り上げてつくってきたものであり、計画の実施が始まったということでございます。今の説明について、それぞれご質問・ご意見がありましたら、どうぞよろしくお願いいたします。

○宇佐美会長

資料1-1に関しては、主に新規のことについてご説明いただきまして、先ほど皆様からのご挨拶の中にもありました、様々なところが変わっているかと思いますが、如何でしょうか。

あるいはこの推進計画が始まったばかりですけれども、今後の進め方等についてのご要望等でもよろしいかと思えますけど。如何でしょうか。

○遠藤委員

新規の事業の方でお聞かせいただきたい。資料1-2の2ページ目、スポーツコミッションですが、設立・連携強化とスポーツプロボノ委員委嘱の二つございます。これの全体的な進め方について、どのようなイメージをされているのか、どのようにやっているのか。よろしくお願いいたします。

○事務局

ご質問ありがとうございます。本年度からスポーツコミッションの推進ということで、当初、北海道全域にスポーツコミッションの市町村の数を増やすことをメインに考えておりますが、色々と予算の関係などから、今年度につきましては今のところ一つないし二つの地域でスポーツコミッションをつくって、そこで活躍するプロボノという推進委員になりますが、そこに委嘱をさせていただき地域全体が活性化するようなモデル地区をつくらせていただき、来年度から、それを全道に波及させていきたいというのが計画です。

○遠藤委員

情報提供として、ラグビーワールドカップに関する話題ですが、今、イタリアチームが、今年の5月の末から、長野県の菅平高原に来ています。スポーツコミッションというのは、こういう合宿の誘致などに期待を持てますので、是非地方を選定した後は、合宿誘致の効果であるとか、モデル地区のノウハウを全道に展開していただければと思います。2点目としては、先ほど宇佐美会長の方からもありました、進めていくに当たって、中間評価だとか、たとえば今札幌冬季オリンピックも報道等では2030年という話も聞こえてきて、その辺を踏まえ全体の進め方とか、軌道修正の仕方だとかの考えがあれば、現時点で良いので話をお聞かせください。

○事務局

ありがとうございます。資料1-1の方でご説明させていただきましたが、それぞれの柱、そして小柱に目標値というのが有るものについては載せていただいています。毎年、この目標がどれくらいの達成推移をしていくかというのを、重視してまた調査していかなければいけないというものもございますし、また、このデータにつきましては、国の隔年実施というのもありますので、そのデータとなりますと、隔年の比較という形になりまして、毎年と比較できるもの、隔年での比較ができるもの等々精査しながら随時皆様の方に報告させていただきたいというふうに考えています。よろしく願います。

○遠藤委員

何か必要があれば、いつでも修正して良いものに変えていこうという趣旨でございますので、前向きに受け取っていただければと思います。

○宇佐美委員長

ありがとうございます。それぞれ毎年毎年事情が色々変わっていくでしょうから、例えばご説明にあった日ハムファイターズのプロジェクトチームも決まったばかりですので予算も無しでもやっていこうということですから、今後、その計画が進んでいくと、また情勢によって色々と肉付けしていくということになるのかもしれませんが、それぞれの分野で全国規模のものがまた計画されてくるのかということになると、そこへの支援等々も入ってくるでしょうから、それぞれ毎年チェックをした上で見直していくということで、ご要望するということがよろしいでしょうか。

○遠藤委員

はい。

○宇佐美会長

他にございませんか。

○日向委員

日向でございます。2020年の東京オリパラの聖火リレーの関係なんですけれども、私も札幌オリンピックの時に聖火ランナーとして走らせていただいた経験上、その時に、一緒に走った小学生・中学生というのは、すごくスポーツに興味を持って、その人達が競技スポーツといいますか、そういったことでのめり込んでいったいのを目の当たりにしている事実があって、是非こういうところを、この文面ではちょっと読み取れないのですけれども、市町村レベルで実施するというふうに思うのですけれども、是非少年・少女という人たちを多くここに登用してスポーツの活性化、スポーツの発展を目指していただきたいなという考えでございます。

○宇佐美委員長

ちょうど良い機会ですから、皆さんもどんな風になっていくのだろうと、細かいことを知りたいと思いますので説明していただければと思います。

○事務局

スケジュールで言いますと、2020年に聖火リレーが実施、たぶん数ヶ月間に渡って実施されます。そこに向かいますと、今年度は、各都道府県がルート案を決めまして、次年度、各都道府県から出てきたルート案をJOCがIOCに提出して、ルートがまとまりましたら次年度、実際に走る方々が公募や、JOCから選定されることとなります。実はオリンピック関連につきましては、中身を公表するということが厳しい状況にありますと、今、委員が仰ったように色んなルールの中、色々な障がいを持った方も健常者の方も、あるいは地域で色々貢献されてきた方、そういった方が皆さんの目に

留まるような、また地域の情報を発信できるようなルートで、北海道全域にオリンピックの平和の祭典、スポーツと親しむ、共生社会、そういったものを広めるのではなく、ムーブメントとして実施できるように考えておりますので、実際に走るというのは短い距離かもしれませんが、聖火リレーを使って、全道にそういう考え方・理念・スポーツと親しむということを広めていきたいと考えております。よろしくお祈りします。

○宇佐美理事長

ありがとうございました。他にございませんか。

○黒田委員

第2期北海道スポーツ推進計画という立派な計画ができたので、私、従前から申し上げますが、これをどういうふうに道民に伝えていくかが大事だと思います。一つは具体的にどう伝えていくのか。それから2点目は、せっかく立派なパンフレットを作られていますので、何部作られて、どこに配付され、その後どうされるのかということをお伺いしたいと思います。3点目、表紙の一番下のプロチームのロゴ、非常に僕は素晴らしいと思っておりますが、一番左にファイターズが来ている理由を教えてください。プロスポーツで一番左側は本来はコンサドーレのはずなのですが、その理由は何なのでしょう。

○事務局

ご質問、ありがとうございます。まずは3点の中から、今後どうやって道民にこの計画を知っていただくかという周知の話だと思いますけれども、これにつきましては当然ながら市町村、それから市町村教育委員会、体育関係の団体含めた形で配布させていただくと考えております。また、教育関係、できれば学校の授業なんかでも見ていただければと思っております。各種イベントでも、こういう計画がありますということを、できる限り細やかにアピールさせていただきたいと思っております。本日皆さんにお配りさせていただいた計画につきましては、1千部作っております。数が少ないと思われる方も居られるかと思いますが、同様のものがホームページからダウンロードできる形となっておりますので、是非活用していただきたいと思っております。ファイターズに係る最後のご質問なんですけれども、ご指摘のとおりです。

○宇佐美委員長

黒田委員、よろしいですか。

○黒田委員

まずですね、千部ということで、非常に部数が少ないので、どんどん刷っていただいて、関係者の方々の目に届くようにしていただきたいと思います。そしてですね、この概要版、コンパクト版のような三つ折り本で良いんで、是非それを各競技場とかですね各スポーツ施設に置いていただいたらと思います。道民はそういう所を利用しているので、せっかく良い物を作ったので、なるべく道民に知らせる方法を考えてください。最後のファイターズのこれはやっぱり格好としては考えてほしかったなと思います。ファイターズのファンも、コンサドーレのファンも、両方がこの北海道を引っ張っているという意識がございます。特にコンサドーレの場合は、自分たちが北海道で最初にプロスポーツチームを作って、牽引してきたという意識が有るので。これは気をつけてほしかったなと思います。

○宇佐美委員長

はい。では、増刷の時に変わってください。

○事務局

ありがとうございます。印刷物は変えることはできませんが、ホームページのデータは変えたいと思います。あと、計画のコンパクト版という話がありましたが、私共はコンパクト版ではなくて、是非この計画自体をですね各施設に置いて欲しいという形で通知をさせていただきたいと考えております。

○宇佐美委員長

はい、ありがとうございました。他にございませんか。

○星委員

北海道レクリエーション協会です。ちょっと細かくてまとめられないような質問かもしれないんですけど、3つお願いします。資料1-2の1ページ、スポーツ王国北海道事業費の事業内容の中に地域スポーツ支援事業、総合型クラブ育成の支援云々とあるんですけども、総合型地域スポーツクラブっていうのは、もう始まってから何年も経つと思うんですけども、最近、情報を耳にしない、段々色々な地域で衰退してきて、あまり活動が活発じゃないような噂を耳にしたりするんですけども、今、北海道の活動状況について判れば教えていただきたいと思います。二つ目は先ほど申したように北海道レクリエーション協会、その下に市町村の協会、それから関係する団体などがあるんですけども、レクリエーション協会が、もし積極的に関わっていくとすれば、スポーツ王国北海道事業費の中で、どういったところがあるのかなということで、教えていただければと思います。最後3つ目なんですけれども、④のところのカーリングの関係で、実は僕はカーリング協会の委員もやっているのですが、カーリングは特別に施設がない

とできない。僕は北見在住なんですけれども、今回、オリンピックで女子が銅メダルを獲得したと言うことで、非常に盛り上がっているところなんですけれども、今お話ししたように、施設が無ければ全く何もできないという状況です。北海道として新しくカーリング施設を建設する計画とか、どこかの団体に補助するといったものが有るのかどうか教えていただければと思います。以上です。

○事務局

ご質問ありがとうございます。まず一つ目の総合型地域スポーツクラブの状況ですが、ご指摘のように数が減ってきているように感じております。道の総合型スポーツ支援事業はスポーツクラブの代表者を集め、1年に1回、新たな取り組みにどのようなものがあるかという紹介をしたりする事業です。またカンファレンス事業ということで、その団体が勉強を踏んで何かできないかということ話し合う場も設けております。この総合型スポーツ支援事業は、財源はt o t o事業で行っております。これらにつきましてはレクリエーション協会さんにも非常に関わっていただきたいという思いがございますので、今後t o t oの事業にですね、メニュー作りについて働きかけていきたいなというふうに思っております。2点目ですが、カーリングの施設数が少ないということでありましたけれども、カーリングだけではなく、冬のスポーツの施設というのは北海道の中でかなり老朽化し、そして数も少ないという形で各競技団体本当に苦労されているところであります。道としましては、一つの市町村に一つの施設を整備ということはなかなか難しいと考えているところがございます。

○宇佐美会長

星委員、よろしいですか。

○星委員

はい。

○宇佐美会長

他にございませんか。

○笠師委員

前々回の審議会でも少し健康とか医療の話をさせていただいたんですが、特に学校スポーツの中でスポーツを運用するための環境づくり、指導者、それらに対する支援。例えば体育協会の方で女子アスリート向けの講習会とか、中高生向けの講習会等々企画しようとしてもなかなかタイミングが合いません。中体連とか高体連主体の合宿で、色々スポーツ外傷を予防するような方法とか、先ほど日向委員からアスリートのお話もありましたけれども、そういったことがしやすいような連携を考えていただきたいなと思っ

ております。体育協会の立場から言うところから推進していこうという考えはあるんですが、なかなか受け側との調整が上手くいかないということで、実は今、昨年度から女性アスリート向けに薬も含めて講習会を開催しようと企画は練っているのですが、推進するに当たってなかなか特にジュニアとか若手のスケート向けの機会を設けられないということがございます。中学校の校長先生などと話をし、そういったコマを作っていただけないかということで、毎年毎年お話をしているのですが、結論としてはカリキュラムが非常にタイトなんで、無理だということで3年間見送り状態で一度も講義をしていない状況になりますので、そういった検討を是非お願いしたいと思います。

○事務局

はい、所管は教育委員会ですので、私の方ではなかなか答えられないところもありますが、今、教育との連携ということで、部活総合指導者が地域で足りない、スポーツ指導者が足りないということで、全般的に地域から指導者を見つけてそこに派遣しようと一緒に連携してやっているところもございます。委員ご指摘のとおり食育の話、薬の話等々大事なことが沢山有るのですが、これをたとえば私が聞いている中では、一つ項目として1時間これを1年間で1回だけ入れてくださいというお願いをしたところ、例えば環境の問題、大麻とかそういった薬物の問題、色んな分野の問題の中からこれも入れてください、あれも入れてください。ということで1時間に入れるのに大変な苦勞をしているということで、非常に困難だというふうに考えております。

○谷内委員

ご指摘のとおりですね、日常の学級活動だとかカリキュラムだとか決まっておりますがかなりきつい。校長にも裁量権があるというがほとんど時間はありません。一つ去年から取り組まさせていただいたのは、営業の関係で講師をされている方に、高体連の会議が何回かあったんですが、その会議に来ていただいて、講演していただく事を去年初めて取り組みました。そこに集まっているのは高体連の専門委員と管理職なので、そこで話し合っただということが一つ考えられます。

○宇佐美会長

これに限らずこの推進計画の議論の中でもありましたけれども、環境生活部と教育庁等々との連携について、少し議論になったかと思います。記憶を辿ると前の局長さんが「連携をとります」とお約束をしてくださったように思いますので、今後、計画を推進する中で、是非、環境生活部にとどまらず連携を進めていただければということはこの審議会としても要望します。

○笠師委員

一点だけ良いですか。追加でお伝えすると例えば中学校・高校の時にそういった薬と

か体のことを聞かずに育ってきたアスリートは氷山の一角だとは思いますが、例えば女性アスリートで生理の時にお腹が痛くなるのは当たり前だと、それで薬を相当の数買ってたんですね。それでいつからかって聞いたら中学・高校くらいから、そういう状態の月になった後に薬を飲み続けていたと言っており、オリンピックに出るぐらいの選手なんですけど、あまりにもひどいので婦人科を受診しろと言いましたところ、生理痛では無く子宮内膜症という病気だったということも判明しました。それから喘息なんかも近年アスリートに多い病気なんですけど、これも中学・高校くらいから上手くコントロールできていないと、結局それが競技をやめる原因となってしまうたり、それから発作が出てしまうこともありますんで、是非、教育庁との連携について前向きに検討をお願いいたします。

○宇佐美会長

ありがとうございました。他にございませんか。大変貴重なご意見色々沢山でました。ありがとうございました。では、報告事項の第2期北海道スポーツ推進計画の報告を終わらせていただいてよろしいですね。

○宇佐美会長

では、次にいきます。報告事項が終了しましたので、冒頭で申し上げましたとおり、次の審議事項は個人情報を含んでおりますので、北海道情報公開条例第26条により非公開といたしますので、傍聴者及び報道関係者の方々はご退出をお願いしたいというふうに思います。よろしくをお願いいたします。

〔報道関係者、傍聴者は退席〕

〔文部科学大臣表彰候補者の選考：非公開〕

○宇佐美会長

予定していた議事は以上でございますけれども、全体を通しまして、何か委員の皆様からこれだけは言っておきたいということがございましたらどうぞ。

○星委員

これは審議とは直接関係は無いのかもしれないんですけど、計画ができました、そしてこれから実施に移っていく流れだったのかと思います。それで、北海道レクリエーション協会、上部団体の日本レクリエーション協会の方で、毎年、全国レクリエーション大会を開催しております。昨年は私たち北海道レクリエーション協会も中心となって、函館を中心にして開催しました。実は前の年に岐阜県で開催しており、今日は日本レクリエーション協会が出している「R e c r e w」という雑誌があるんですけども、それに載っかっているスポーツ・レクリエーション行政ということで、実践の事例があり

ますので、今日は皆さんの分印刷はしておりませんので、後ほど事務局の方にお渡しして、是非見ていただければなと思って持ってきました。北海道とは環境も違いますし、県、道の規模も違いますので、一概に同じようにやりましょうと言うことにはならないとは思いますが、岐阜県の場合は知事が先頭に立って、全国レクリエーション大会を推進しており、県全体で健康寿命延伸というのを第一の目的にして、色んな活動に取り組んでいます。先ほどの計画から実施へという段階で、この岐阜県の例が非常にわかりやすいなと思ひまして、紹介させていただきました。

○宇佐美会長

ありがとうございます。他にございませんか。特になければ、これで終了いたします。皆様、ありがとうございます。事務局にお返しいたします。

○事務局（石丸課長）

宇佐美会長ありがとうございます。

本日、ご審議いただいた議題、審議事項「文部科学大臣表彰」の選考につきましては、本日ご審議いただいた内容を踏まえまして、これから知事から文部科学大臣に推薦いたします。その後、概ね9月の中旬頃に表彰者が決定される予定になっておりますので、決定まで候補者氏名等の取扱については、留意いただきたいと思います。

また、本日審議事項に使用した資料ですが、選考経過等については部外秘となっておりますことから、審議資料の中の資料2-1、2-2につきましては、回収させていただきます。

次回、第2回の審議会につきましては、10月頃の開催を予定しております。

4. 閉 会

○事務局（石丸課長）

それでは、以上をもちまして、平成30年度第1回北海道スポーツ推進審議会を終了したいと思います。本日はありがとうございました。